

令和4年度がスタートして、早2週間が経ちました。新たな出会いからはじまる協働生活は生徒のみならず、職員も保護者の皆様も同じではないでしょうか。
始業式の生徒代表のことで、学習と生活の両面にわたって取り組み、仲間との協働によって自覚ある行動で日本一あたたかい学校をめざすことを力強く述べてくれました。
そのためにも、『気づき』『考え』『行動し』『発信する』を合い言葉に練り上げていきたいと考えています。

4月6日(水) 始業式 生徒代表の言葉

僕は友だちがたくさんできるような、優しく頼りになる2年生になるために、二つのことをがんばって楽しい学校生活を送りたいと思っています。

一つは日頃から周りをよく見て、困っている友だちや後輩に気づけるようにしていきたいです。また、何事も積極的に取り組んで、先輩たちを支えて行けたらと考えています。

二つは毎日こつこつと学習し、友だちと教え合ったり学び合ったりして学習面でも頼りになる人をめざします。

そして、今までのようにみんなで、日常生活で勝負しながら、「正義の通る優しい学年」をつくっていきます。

2年生代表 山田 琥太郎

昨年行われた体育会等をと
おして、協力することや、一人一人が周りのことを考えて行動することの大切さを改めて実感することができました。今年は、私たち3年生が中心となり、1・2年生がついて行きたいと思えるような姿で取り組んでいきたいです。

与えられた環境の中で、全員が全力で楽しみ、満足できる行事をつくり上げていきたいです。また、部活動においても、目標や課題を意識して練習に励むことが必要だと思います。先輩方や先生方への感謝の気持ちを忘れず充実したものにしていきたいです。

そして、私たちは受験生として、後悔の無いよう日々勉強に取り組み、今まで培ってきた努力の成果を発揮できるようにしたいです。

最上級生という自覚をもち、東風魂四訓を意識して東中生徒全員で「日本一あたたかい学校」をめざしていきましょう。

3年生代表 荒木 結衣

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活発に活動することができませんでした。そのような中で大切だと感じたのは、仲間の存在と皆を引っ張ってくれる人の存在です。卒業された先輩方により、活動が制限された中でも達成感を得ることができました。そして、互いに支え合うことで仲間とたくさんの思い出をつくることができたと思います。

また、「日本一あたたかい学校」にするためには、生徒全員が東風魂四訓を意識して生活することからはじまると思います。2日後には新入生が入学します。2・3年生を見たとき、こんな先輩になりたいと思ってもらえるように、東風魂四訓をこれまで以上に意識して生活して欲しいと思います。今年度の生徒会スローガン「色～個性を大切に～」を大事にし、仲間と協力し合って「日本一あたたかい学校」を生徒全員でつくっていきましょう。

生徒会代表 村山 怜奈

校長の話

3年生のみなさん、2年生のみなさん、進級おめでとうございます。

3年生は、最上級生として、本校を代表する顔とも言える存在になりました。たくさんの活躍の場があると思います。体育会や文化発表会、合唱コンクール、中体連や中文連、楽しみにしていることだと思います。また、2年生、1年生の手本として活躍してくれることに期待しています。

2年生は、学校の中堅学年として、8日に入学してくる1年生をリードする学年になりました。これからは頼られる先輩になったということです。本校の良さを1年生に伝えていってください。

さて、本校は生徒の皆さんと先生方で「日本一あたたかい学校」をつくるために取り組んでいますね。私も校長としてこの素晴らしい取り組みを引き継いでいきたいと考えています。そのためには、生徒一人一人のみなさんが「安心して、自信をもって活動できる」ようにしなければなりません。

ここで、イソップ物語の「3人のレンガ職人」というお話を紹介します。

①

②

③

どうでしょうか。このお話からどんなことが分かりますか。3人のレンガ職人は、レンガを積むという同じ仕事を行っています。しかし、何かが違いますね。

1人目の職人は、「やらされている」という気持ちが強く、不満をもって仕事をしています。

2人目の職人は、家族を養えるからと喜んで仕事をしています。しかし、もっと賃金が高い仕事があったらどうでしょうか。レンガ職人にこだわらないかもしれません。

けれども3人目の職人は、歴史的な事業に参加しているという意識をもって、教会の完成をイメージし、そこに訪れる多くの人を喜ばせたいという目的をもって仕事をしています。人のため、未来のためになる仕事として「誇り」をもってレンガ積みをしています。そこには、仕事をする上で働く喜び、生きる喜びが感じられます。

同じことをするにも、考え方一つで、幸せな気持ちの度合いは変わり、より素晴らしい内容へと変わります。そして、まわりの人への影響をも変えていきます。

そこで、考えてみてください。もしかしら、自分に自信がもてず、自分のことを好きになれないで悩んでいる人が近くにいるかもしれません。そのような中で、先生方から指示されて行動したり、叱られるから行動したりするのは、生徒一人一人の皆さんが「安心して、自信をもって活動できる」環境にはなりません。

これから始まる新しい学校生活にあたって、心にとめてほしいことがあります。それは、自らの「気づき」を大切に、気づいたことを「考え」、考えたことを「行動」することです。「日本一あたたかい学校」をつくるために、日々の「気づき」を大切に「発信できる」ように取り組んでほしいと願っています。

世界中をまわっている旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、一人の男が道の脇で難しい顔をしてレンガを積んでいました。

旅人はその男のそばに立ち止まって、尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

「何って、見ればわかるだろう。レンガ積みには決まっている。朝から晩まで、俺はここでレンガを積まなきゃいけないのさ。あんた達にはわからないだろうけど、暑い日も寒い日も、風の強い日も、日がな一日レンガ積みさ。腰は痛くなるし、手はこのとおり。」

男は自らひび割れた汚れた両手を差し出して見せました。

「なんで、こんなことばかりしなければならないのか、まったくついてないね。もっと気楽にやっている奴らがいっぱいいるというのに・・・。」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けました。

もう少し歩くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会いました。先ほどの男のように、辛そうには見えません。

旅人は尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

「俺はね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」

「大変ですね。」

旅人はいたわりの言葉をかけました。

「なんてことはないよ。この仕事のおかげで俺は家族を養っていけるんだ。ここでは、家族を養っていく仕事を見つけるのが大変なんだ。俺なんて、ここでこうやって仕事があるから家族全員が食べいくことに困らない。大変だなんて言っていたら、バチが当たるよ。」

旅人は、男に励ましの言葉を残して、歩き続けました。

また、もう少し歩くと、別の男が生き生きと楽しそうにレンガを積んでいるのに出くわしました。

旅人は興味深く尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

「ああ、俺達のことがい？俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ！」

「大変ですね。」

旅人はいたわりの言葉をかけました。

「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ！素晴らしいだろう！」

旅人は、その男にお礼の言葉を残して、また元気いっばいに歩き続けました。



新学級発表

始業式の後、学年所属の先生方を紹介しました。そして、自分が何組になっているのか……。胸に手を当てて……。友だちと手をつないで……。体育館入口ホールに貼り出された学級名簿から、ドキドキしながら自分の名前を探します。生徒にとっては一大事です。



学級開き

下足箱を移動して、新学級に移動します。進級した気持ちも高まったことでしょう。新しい仲間と担任の先生で学級開きが行われました。配付物や提出物を整理するのも一苦労ですが、新たな生活のスタートをさせるために必要なものです。期限は守りましょう。